

学校だより

Nakijin Times

水無月（みなづき）

令和3年6月21日 今帰仁小学校

2021 June Twenty first(21st)

文責：校長 屋良 篤

Number 20

平和集会

本日、平和集会が行われました。2時間目は、高学年を対象に今帰仁城跡案内ガイドをされている仲嶺誠浩さんをお招きし、実際の戦争体験についてお話をいただきました。戦争の悲惨さや当時の苦勞についてお話を頂いたこと、また、これからの恒久平和のために大切なことについてもお話をしてくださいました。



仲嶺さんは、戦争は人間の心のなさ、相手を思いやる気持ちのなさから始まる。これから皆さん（子ども達）が大人になるにつれて、人を思いやる気持ちを育み、相手の立場に立って物事を考えられるような人になってほしいと願っていました。これから、国際社会に生きる私たちにとってとても大切になるお言葉だったと思います。

また、3時間目の低学年対象では、村地域コーディネーターの上間哲郎さんが村内を中心とした戦争のお話をしてくださいました。子ども達が陣地をつくらされたり、女子までやりをもって訓練をさせられたりしたお話がありましたね。戦争は、他の国を奪うために人の心まで完全にゆがめてしまいます。仲嶺さんのお言葉を心に秘めて、日頃の生活を送っていきたいですね。

悲惨な戦（いくさ）の実態



作戦優先し住民守らず

戦争は軍隊同士が戦うものですが、沖縄戦では住民のための十分な避難計画が立てられなかったため、軍人と住民が入り交じった状態で地上戦が繰り広げられました。兵力が不足していた日本軍は住民も戦闘に協力させました。

日本軍が住民の命よりも軍の作戦を優先したことも住民の犠牲を大きくしました。45年5月下旬、日本軍は米軍の猛攻を受けて壊滅状態に陥りました。しかし、降伏せずに首里の司令部を捨てて、約10万人の住民が避難する南部に退き戦闘を続けました。本土で戦争の準備をするために米軍を沖縄で

足止めにする作戦をとったのです。その後、日米両軍による戦闘は約1カ月続きました。

南部では追いつめられた日本兵による壕追い出しや食料強奪が発生しました。日本軍は住民の投降も許しませんでした。日本軍を追う米軍は無差別攻撃を加えました。住民は日米両軍の戦闘に巻き込まれ、逃げ場を失いました。

日本軍の南部撤退後の6月に住民の戦死者が急増しています。日本軍が首里で降伏し、戦闘が5月で終わっていただ軍人も住民も、大勢の人の命が助かったかもしれません。

令和3年5月16日
琉球新報（リュウホウ）